

3月13日 JDS 鳥取県支部の映画「39 窃盗団」上映会**映画上映とともに押田監督のトークショーも実現**

3月13日(日)、「39 窃盗団」の映画上映会を行いました。参加者は100名を超え、鳥取県支部としては嬉しい結果でした。

上映4日前に急遽連絡があり、押田興将監督も奥様の実家へ里帰りされて、会場へ足を運んでくださるとのこと。地元新聞社へ記事の掲載依頼を行い、ギリギリのところで、当日の朝刊に「監督のトークショーもあり」と掲載していただきました。

押田監督のお話の中で、ダウン症のある人を生ませないために出生前診断をするのではなく、ダウン症として生まれた人がどんな支援者と出会うか、また、どんなつながりをもつかで幸せになれるのではないかと、「不幸な人」と決めつけている世間の考え方について疑問を投げかけられた言葉が

印象に残りました。見てくださった方々から「世の中の残酷さをここまでリアルに描きながらも、また笑顔に戻してくれる、素敵で映画をありがとう」という感想をいただきました。これからも地道な活動を継続していきたいと思います。

【鳥取県支部 支部長：高垣 美恵】

押田監督とスチール担当の田中さんと一緒に笑顔で

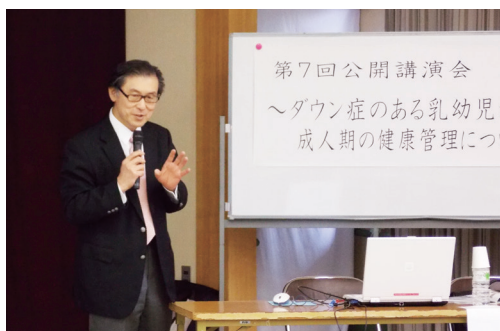
3月19日 JDS 奈良北支部の公開講演会**乳幼児から成人期の健康管理について知識を深めたセミナー**

JDS 奈良北支部は、3月19日(土)、「ダウン症のある乳幼児から成人期の健康管理について」をテーマに、第7回になる公開講演会を開催。講師には、JDS 理事で大阪支部長の玉井浩氏（大阪医科大学教授・小児科医）をお迎えしました。

第一部は「出生早期から乳幼児、小学生までの健康管理」、第二部は「中学生、思春期から成人期までの健康管理」について、具体例を挙げて分かりやすく講演してくださいました。また、国内で臨床試験が行われている薬に関する情報提供もありました。

当日は雨天にも関わらず、奈良県外からも聴講者が訪れ、福祉施設関係者らの姿もありました。参加者からは、「ダウン症者の健康管理について、気をつけるべき点がよ

く分かった」といった声が聞かれました。講演会後のアンケートでも、「内容に満足している」という意見が多く、ダウン症のある人たちを取り巻く環境や日々の健康管理について、知識を深める一日となりました。

【奈良北支部 会員：市田 崇行】

生涯を通じての健康管理について講演した玉井浩理事